※令和４年度以降入学生用

学校番号	C4001

令和８年度　外国語科

科目	**英語Ⅰ入門**	単位数	２
使用教科書	なし		
副教材等	英語Ⅰ入門　（NHK 出版）		
レポート	６通		
必要出席回数	８回		
テスト	○		

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- 「話す」「書く」「聞く」「読む」という４技能の基礎力を身に付ける
- 中学英語の内容を確認しながら、高等学校レベルへ段階的にステップアップするように学習をすすめていきます。
- ひとつずつ理解するために、スクーリングにはできるだけ出席するようにしてください。
- スクーリングと NHK 高校講座の併用で、語彙力強化や予習復習にも取り組みましょう

2　学習の到達目標（「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標）

領域	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
学習到達目標	・アルファベットが発音されるのを聞いてどの文字であるかを聞き取ることができる。 ・ゆっくりと、またはっきりと発音されれば身近で基本的な語や句が聞き取ることができる。	・基本的な日常の挨拶や季節の挨拶の文を読んで理解することができる。 ・基本的で具体的な単語や句の意味を理解することができる。	・アルファベットを正確に発音できる。 ・基本的な単語を母語話者にも理解してもらえるように適切に発音することができる。	・アルファベットを正確に発音できる。 ・基本的な単語を母語話者にも理解してもらえるように適切に発音することができる。	・ブロック体のアルファベットを大文字･小文字を区別して順番通り書くことができる。 ・基本的な単語や句を正確に書くことができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本的な英語の音声、語彙、表現、文法などの知識を身につけ、活用できる技能を身につけている。	場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどを基本的な英語で的確に理解し、適切に表現している。	英語の背景にある文化に対する理解を深め、また、自律的・主体的に、自分の考えを表現しようとしている。

- 学習指導要領(第１章第２款の５)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
- 学期末に５段階で評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

R＝レポート　S＝スクーリング　T＝定期考査

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学期	題 “題材名”	領域	観点	単元(題材)の評価規準	評価方法		
					知 (a)	思 (b)	主 (c)
前期	Part1 代名詞･主語と主格･be 動詞 Part2 所有格･ be 動詞の否定文疑問文 Part3 一般動詞 3単現の s Part4 複数形 Story1-1 Story1-2 簡単な自己紹介 Part5 一般動詞の疑問文･否定文 Part6 一般動詞の疑問文・否定文 Part 7 There is(are)での文と その否定文・疑問文 Part 8 疑問詞 Story2-1、 Story2-2 Let’s talk about Tom’s family ・Seo An’s family Part 9 be 動詞の過去形の 否定文と疑問文	● 聞くこと	a.	アルファベットに慣れ、基本的な挨拶の練習を行い、未知の単語があっても推測して聞き続けることができる。	R S T	R S T	R S
			b.	英語の文字や音声に慣れ、セクション毎に本文の音声を聞き、レポートにメモをとることができる。			
			c.	（本単元では設定しない）			
		● 読むこと	a.	新入生同士の自己紹介を行い、:be 動詞と一般動詞の疑問文、否定文を書くことができる。			
			b.	レポート内容に関連した練習プリントを活用し、レポート内容に関連したプリントによる復習を行うことができる。			
			c.	いくつかの基本的な自己紹介の表現ができ、be 動詞と一般動詞の疑問文、否定文を読解することができる。			
		● 話すこと （やりとり）	a.	学んだ、語や句を使用し、挨拶などができる。(be 動詞、一般動詞等)			
			b.	セクションごとに読み、内容を理解できる。			
			c.	相手の挨拶や自己紹介の内容が理解でき、:疑問文、否定文の意味を理解することができる。			
		● 話すこと （発表）	a.	学んだ語や句を使用し、発話できる。			
			b.	セクションごとに読み内容を発話できる。			
			c.	相手の挨拶や自己紹介の内容が理解できる。			
		● 書くこと	a.	例示する表現の使い方を理解することができる。			
			b.	本文中の意味や用法を理解でき、使用することができる。			
			c.	自分の意見や、伝えたいことを主体的に記入することができる。			

※令和４年度以降入学生用